

またまた季節はずれの大パウダー！

越後 守門大岳コウクルミ沢左岸尾根山スキー

手嶋

【日時】 2009年3月29日(日)

【メンバー】L手嶋、飯田、中村、池田、坂村

この山行の2日前に神楽のゲレンデスキーに行った。この時は前夜からの雪が20～30cm積もり、ゲレンデにいてなかなかのパウダーだった。それから冬型が続いている。この日も期待できるかもしれないということでの出発であった。

前夜の道すがら雪が降っている。いいぞいいぞ。

朝はまじめに起きて二分先の除雪終了点に。山スキーと思われる車が10台以上も停まっていた。ほとんどは保久礼の尾根の往復であろう。以前その尾根を登った時、対岸に見えた左岸尾根がスキーには最適に見えた。さらに間のコウクルミ沢の上流部も広大なバーンが広がっていることが地図から想像される。今回はこれを頂きに行く。

二分から少し行ったところで右手の林道（無除雪）に入る。左岸尾根の取り付けは低い崖のようになっていて、登りにくそう。右手の沢から巻いて尾根の上に乗りがかる。ここからは樹林の急登。いい雪が積もっている。しかしやや木が混んでいるのは問題。

急登が終わると緩い尾根になるが、このあたりから木の密度も薄くなり、滑りには最適な尾根になる。地図から推測したヤセた部分も特に問題なし。コウクルミ沢の岩壁マークのところには大きな滝が出ているのがわかる。ルートとしてはその上部でこの尾根に戻ってくるのがよかろう。

左岸尾根は終始とてもいい雪と、木がまばらな素晴らしい斜面が続く。滑りがとても楽しみだ。天候も少しずつ良くなってきた。しかし陽が当たってほしくない。この季節すぐに雪が悪くなってしまうからだ。悪天ならば悪天で文句を言い、陽が照るなと言い、わがままなものだ。

やがて左手に素晴らしいブナの斜面が現われ、その上部は開けて沢状のいいバーンが広がる。その1本向こうコウクルミ沢本流の源頭部は、予想どおりところどころに木が生えている大バーンだ。保久礼の尾根を人が登ってい



【冬に逆戻りしたような景観】

るのが見える。頂上も近い。

しかし頂上まであと100mというところからガスってきてしまった。ガスは徐々にひどくなり、しまいにはホワイトアウト状態になってしまう。これでは登ったところ以外は滑れない。

飯田さんのGPSによって何とか頂上には立つことができたが、もう数m先も見えない状態。滑る用意をしながらしばらく待ったが、一向に晴れない。結局コウクルミ沢大斜面は諦めて、登ったルートを戻ることにした。まあここでも素晴らしい尾根なので満足できるだろう。



【コウクルミ沢状部大斜面】

頂上からしばらくは、トレースをはずすわけにはいかないので、スピードを出しては滑れない。これもつまらない。ようやくガスが

薄くなってくるあたりから深雪滑降ができるようになった。しかし今回自分はファットスキーのスプリットシールがこれまであまりに後ろに滑ったので、以前からの短いスキーにした。尾根の斜度が緩くてこれがまた滑らない。ほとんど直滑降状態だ。もう少し深雪が浅ければ・・・、などとまたわがままなことを言っている。

それでも滑れ滑れで楽しく下っていく。沢を滑ることはできなかったが、本当にスキーにはいい尾根だ。保久礼尾根よりも間違いなくいい。

やがて終盤になり尾根が少しずつ急になってきた。「ここからは手嶋さんの出番ですよ。」と中村君が言う。なるほど、木が混んできて急斜面。おまけにすでに雪も重い。確かに私のスキー向きだ。よし、とばかりに密な林の急斜面に飛び込む。ところどころ40度を越える斜面だが、この短いスキーは極めて快適だ。なるほど、こういう雪質とこういう場所ではこれまでのスキーも悪くはない。この部分は最後まで十分に楽しませてもらった。

最後は登り始めの崖状の部分は避け、右手の橋を渡って林道に出て車まで戻った。

ホワイトアウトの中頂上には行けたが、コウクルミ沢を滑ることはできなかった。是非来年来ようとメンバーと話し合った。

【行程】二分先車止め(7:55)～尾根取り付き(9:30)～大岳頂上(13:20-13:40)～尾根取り付き付近(15:10)～車止め(15:40)

【地図】穴沢、守門岳